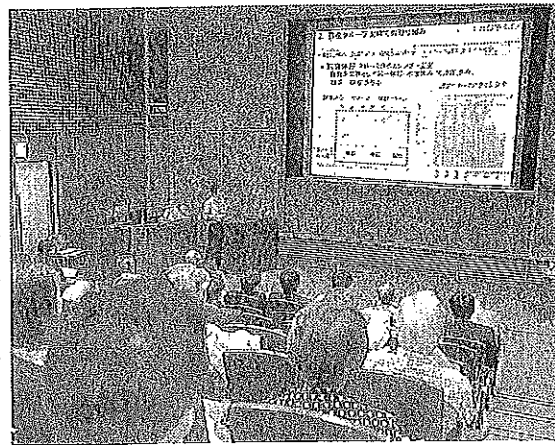


節電の知恵共有を

横浜 産官学9団体が報告

電力供給不足が懸念される今夏に向け節電の情報を共有しようと、横浜市地球温暖化対策推進協議会の事例報告会が10日、横浜情報文化センターホールで開かれた。



各団体の節電への取り組みを紹介した横浜市地球温暖化対策推進協議会の報告会。横浜情報文化センターホール

例報告会が10日、横浜情報文化センターホールで開かれた。産官学9団体が節電への取り組みを報告。企業や団体など会員約80人が出席し、知恵を絞ったアイデアに互いに聞き入った。

工場部門で土日曜に操業する代わりに木金曜に休む日産自動

車(横浜市西区)。オフィスでも、残業者を集約するアイデアを紹介した。各フロアごとに付けていた照明や空調を大幅に抑える。

机まわりに注目したのはJFEエントニアリング(同市鶴見区)。パソコン作業が5分間止まると電力

消費量の少ない「セーフモード」に切り替わるソフトウェアを導入したという。東京都市大学横浜キャンパス(同市都筑区)の環境情報学部の学生は、授業時以外の空調オフなどで4月は前年比39%近く節電できたことを紹介。「当たり前

と思っただけでは苦にならない」と意識改革も訴えた。協議会は温室効果ガスの削減を目標に市民、民間企業、NPO、市など195会員で構成。この日は通常総会に合わせて事例報告会を開催した。

(中尾 浩之)